うきは市
企業版ふるさと納税
対象プロジェクト

2026年度版

プロジェクト1

こどもをまんなかに、
地域で育て合うまちづくり
ー 子育て支援プロジェクト

現状と課題

2020年の国勢調査では、うきは市の合計特殊出生率は1.53と、全国平均よりも高い水準を維持していますが、出生数そのものは減少傾向にあります。少子化の進行とともに、子育て世代が安心して子どもを産み育てられる環境の整備が急務です。

市内には子育てサロンや親子交流スペースのニーズが高まる一方、産婦人科等の医療機関が市内にないため、妊娠・出産時の移動支援が課題となっています。また、働きながら子育てをする環境の充実や、地域全体でこどもを育てる仕組みづくりが求められています。

結婚・妊娠・出産・子育てを切れ目なく支える体制が不十分であり、子育て世代の転出を防ぎ、若い世代がうきは市で子育てを選択できるよう、官民・地域が一体となった支援の強化が必要です。

寄附の活用方法

- 結婚・妊娠・出産・子育てを切れ目なく支える総合的な支援体制を構築します。
- 子育てサロン・親子交流スペースを設置し、孤立しがちな子育て家庭が気軽に集い交流できる居場所づくりを進めます。地域・企業・行政が連携した「育て合い」の環境を構築します。
- 産婦人科等の医療機関が市内にありません。安心して子どもを産める環境を整備し、子育て世代の定住を促進します。





プロジェクト2

誰もが移動できる、つながるまちうきは

ー のるーとうきは・交通政策プロジェクト

現状と課題

うきは市は、公共交通が限られており、自動車を持たない高齢者や子育て世代にとって、通院・買い物・通学などの日常的な移動が困難な状況にあります。路線バスの減便・廃止が進む中、移動手段の確保は地域の持続可能性に直結する重要課題となっています。

こうした課題に対応するため、うきは市では令和5年度よりAI活用型オンデマンド交通「のるーとうきは」を導入しました。スマートフォンアプリや電話で予約でき、乗り合い方式で効率的に運行するこのサービスは、高齢者の外出支援や公共交通空白地域のカバーに大きな効果を上げています。

一方で、サービスのさらなる拡充・維持には安定的な財源が必要です。また、公共ライドシェアの導入検討や交通弱者への移動支援強化など、持続可能な地域交通体制の構築に向けた継続的な取組が求められています。

寄附の活用方法

- 令和7年度より運行を開始したAIデマンドバス「のるーとうきは」の運行エリアを拡大し、より多くの市民が利用できる体制を整備します。高齢者・障がい者・子育て世代など、移動困難者への優先的な支援を充実させます。
- 公共ライドシェアの導入検討を進め、既存の公共交通との最適な組み合わせによる地域交通ネットワークを構築します。デジタル技術を活用した効率的な配車・運行管理システムを整備します。
- 「人と地域がつながり続けるうきは」の実現に向け、交通を核とした関係人口・移住者の誘致促進にも取り組みます。移動のしやすさが、うきは市への定住選択につながる環境を整えます。



プロジェクト3

次世代へつなぐうきはの農業
ー 農業振興プロジェクト

現状と課題

年間を通して様々なフルーツが採れることから「フルーツ王国」と呼ばれ、果樹栽培で有名なうきは市ですが、農業従事者の高齢化や後継者不足が進み、担い手の確保が大きな課題となっています。また、耕作放棄地の増加、生産資材価格の高騰、気候変動による影響など、農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

うきは市では、地元農協と共同出資してトマト栽培を学ぶ研修組織を設立し、新規就農者や後継者の育成に取り組んでいます。また、品質に問題のない規格外農産物の有効活用による収益向上や食品ロス削減も求められています。こうした課題に対応し、担い手の確保・育成や農産物の付加価値向上を進めながら、持続可能な農業の維持・発展を図っていくことが必要です。

寄附の活用方法

- 耕作されなくなった農地や荒廃農地を借り受け、適切な管理や活用を行うことで、大切な農地を守ります。農地を維持することで、地域の景観や農業生産力の保全にもつなげていきます。
- 品質には問題がないものの、形や大きさなどの理由で出荷できない農産物を有効活用するため、加工品を製造できる施設を整備・運営し、農家の収入向上や食品ロスの削減を図ります。
- 新たな就農者の確保や人材育成に取り組み、安心して農業を続けられる環境づくりを進めます。農業の活性化を図り、持続可能なうきは市の農業の実現を目指します。





プロジェクト4

水の恵みを守り、次世代へつなぐ
ー うきはウォータープロジェクト

現状と課題

うきは市は、「名水百選」をはじめ、水にまつわる数々の日本百選に選ばれている名水のまちです。全国の市の中で唯一上水道を持たず、市民の約9割が地下水を利用して暮らしているほか、ミネラルウォーターの採水地としても知られています。

うきは市の清らかな地下水は、約3万人の市民の暮らしを支えるだけでなく、市外にも供給され、福岡都市圏の約300万人の生活や企業活動を支える大切な水資源となっています。そのため、この貴重な水を将来にわたって守り、安全で安心して利用できる状態を維持していくことが重要です。

寄附の活用方法

- うきは市の豊かな水を守り、未来へ引き継ぐため、水量や水質の管理を行うとともに、市民参加による年2回の河川清掃活動に取り組みます。
- 水源を守るために森林整備や水路工事を進め、安全で良質な水を維持できる環境づくりを行います。
- 水にまつわる歴史遺産や水利技術を紹介する施設等などを整備し、うきは市の水の文化や魅力を広く伝えていきます。





プロジェクト5

ルリーロ福岡とともに歩む、うきはのまちづくり

ー うきはラグビータウンプロジェクト

現状と課題

2022年の春、うきはで誕生した地域密着型ラグビーチーム「ルリーロ福岡」は、母体となる企業を持たず、選手たちはうきは市や近隣市町の企業で働きながら、地域と深く関わり、トップリーグでの活躍を目指して日々練習に励んでいます。

プロチームであるルリーロ福岡の存在は、スポーツを通じてうきは市民の心をつなぐとともに、選手が地域企業で働くことで、少子高齢化や人口減少が進むうきは市に新たな活力を生み出し、地域課題の解決にもつながっています。

一方で、母体企業を持たないため、持続的なチーム運営に向けた安定的な資金確保が大きな課題となっています。また、ラグビー競技に適した人工芝グラウンドが不足しており、選手たちが最高のプレーをできる環境整備も求められています。

寄附の活用方法

- 市内の浮羽究真館高校と連携し、ラグビーを通じた人材育成を推進するとともに、地域企業や事業者との協働による地域経済の活性化を図ります。
- ラグビー競技に適した人工芝グラウンドを整備し、トップレベルのプレーに対応できる最適な環境づくりを進めます。



